

神楽名

さの 狭野神楽

伝承地

狭野地区
高原町大字蒲牟田

指定等

国指定重要無形民俗文化財

伝承団体

狭野神楽保存会
代表 久保田 芳人



鉾舞

◆ 神楽の概要・由来・その他

狭野神楽（狭野神社伊勢講神楽）は、宮崎と鹿児島^{かんめ}の県境、信仰の山である霧島山の麓に位置する狭野地区で行われており、地元では「神舞」または「神事」と呼ばれている。以前は狭野神社の氏子だけで奉納されてきた神楽は、現在行政区の一つである狭野区^{かんごつ}の行事として、集落ぐるみで開催されている。第五代孝昭天皇^{こうしやう}の御代（紀元前475～393）に、御幼名^{さのみこと}を狭野尊と称する初代天皇である神武天皇ご誕生の地に創建された、狭野神社の年中行事である。歴史の長さが窺える伝来品の多さが特徴であり、江戸時代を通して寄進された採り物や、更に前の時代から用いられていたと思われる古い面も多数残されており、江戸時代初頭には神楽を実施出来るだけの組織が成立していたと考えられる。

神舞の伝統的な形式として、旧薩摩藩神舞^{たいほう しめ}の特色である巨大な大宝の注連（地元で「サオ」とよばれる）を背後に建て、屋外に注連縄で区切られた規模の大きな外講屋^{そとこうや}を設える。アクロバティックな演目が多い中、唱教は高天原を向き静止したまま唱えられ、舞から独立している。

◆ 芸能の機会・場所

- 狭野夜神楽... 12月の第1土曜日から翌日日曜日早朝まで、狭野神社第二鳥居にて奉納
- 夏居... 狭野神社の7月、8月の例祭にて
- 元始祭... 1月3日

◆ 演目一覧

神事	はまくだ 破魔下り	さいじやうさい 齋場祭	おおくらのこと 太皷之事	一番舞
かんし 神師	とつで 飛出	じわり 地割	かなやま 金山	しめ 志目
たかび 高幣	よつこと 四つの事	しんか 臣下	ふんつるぎ 踏劔	はなま 花舞
ながなた 長刀	みのまい 箕舞	ほこまい 鉾舞	ほんつるぎ 本劔	すけ 住吉
ひとりつるぎ 一人劔	さんさ 三笠舞	おおかぐら 大神楽	しばら 柴荒神	ごすまい 御酔舞
りゅうぞう 龍蔵	こふさ 小房	むしやかんし 武者神師	たぢから 手力	しやうしん 昇神の儀

※平成27年12月の神楽奉納番付に基づく

❖ 演目の特徴

江戸時代には四十番近い演目を保有していたとされるが、明治40年代に三十三番構成に改められた。神楽は全演目中3分の1が刀を採り物としており、歴史ある刀の舞は、結界を張るような力強い反問等、霧島修験の影響が色濃く残り、地元では「武士の神舞」の認識が強い。中でも代表的な「踏劔」は児童を中入りとして、左右から差し出される刀先を持ち、阿吽の呼吸で曲芸的な舞が繰出される。竈杵を肩に渡した杵橋の上に、箕を被った児童を立たせて舞う豊穰祈願の「箕舞」では、箕から紙吹雪が散らされる。「御酔舞」は「瓶舞」とも呼ばれ、白紙を巻いた焼酎の五合瓶を捧げるように持ち、掛け声と共に酒を呑み、首を振りながら舞う独特な動きを繰り返す。

❖ その他の特徴

- 面... 江戸時代以前から用いられていたと思われる古い面が12面（特別な機会のみ使用）
通常は高千穂町で作られた複製面を使用
- 楽... 締太鼓、笛、鉦、すり鉦
- 装束... 白笠、白衣、白袴、青袴、狩衣、単衣、伊賀袴、大口袴、襷、鉢巻、頬被、毛笠、烏帽子 等
- 採り物... 錫杖、扇、刀、藤の鞭、襷、弓矢、高幣、榊枝、竈杵、箕、長刀、三又鉦、焼酎の五合瓶、杓文字、搗粉木、お玉 等
- 文書... 明治43年に神歌を記した「神舞之歌」が保管されている

❖ 伝承の現状・課題

現在保存会青年部は30名、神楽の運営は地域主導、舞は保存会を中心に担われている。地域の伝統行事として、地域ぐるみで協力してもらう体制ができているが、少子化の影響で後継者不足が心配される。幼いころ神楽を経験した者は、地区外に出ても将来戻ってきてくれる事を視野に入れて伝承している。



踏劔



箕舞



御酔舞